

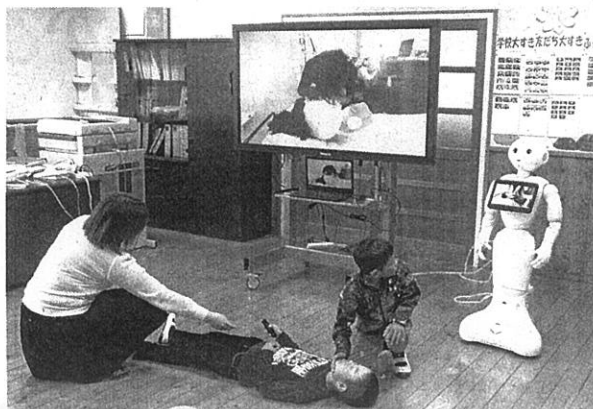
佐賀・武雄市立武内小学校

ICT生かし協働的に問題解決

「共感力」「対話力」「深化力」育む

「協働的に問題を解決する力の向上を目指す学習指導の研究」に取り組み佐賀県武雄市立武内小学校（青木敏秀校長、児童131人）。「共感力」「対話力」「深化力」の育成に重点を置いた実践を積み重ねている。「ICT機器の効果的な活用」の視点で教材研究に取り組み、教師力の向上にもつながっているという。指導・助言する新地辰朗・宮崎大学理事・副学長のコメントと合わせ、同校の取り組みを紹介する。

プログラミングでプール事故防止へ



人工呼吸などの実演を交え、プログラミングの発表練習を行う児童ら

人工呼吸などの実演を交え、プログラミングの発表練習を行う児童ら

新学習指導要領で授業改善。年度初めと終わりに「対話力」善の視点として示された児童アンケートを行い、その「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、問題解決に欠かせない力として①「共感力」（相手の考えに寄り添い受け止める力）②「対話力」（比較、分類、関係付けをしながら考えを深め話し合う力）③「深化力」（自分の考えや学習のねらいに迫る振り返りを言語化し、学びを深める力）の三つを設定した。それらの力を見取るために、ループリックで5段階（低学年は3段階）の子どもの姿も設定。年度初めと終わりに児童アンケートを行い、それぞれ力の伸びを見取っている。昨年度は、「対話」ともにもう一度話し合わせたい考えを提示すること、子どもの思考を深める対話につなげている。

そこで「教師の働き掛け」の一つとして、「共感力のものさし」（「友達の考えや言いたいことを理解しよう」などの心構え）を作成して教室内に掲示。授業内容や児童の実態に応じて項目の一つを選び、授業で大切にしたいことの意識付けに選ばれたことで、峯慎一郎指導教諭（教務主任）は「授業の中でICT機器をさらに効果的に活用したいと考えた」と語る。

例えば、低学年は子どもの実態を踏まえて「話し合う力」を育てたいと考え、ホワイトボードを使用。付けた力に応じてアナログとICT機器をうまく使い分けている。タブレット端末の使用スキルなどを身に付けるために、「ICTスキルタイム」（年3回）を設定。使い方に慣れた後、3年生から授業の中で個人やグループでの活用に取り組んでいる。

課題の一つは、「ループリックで見取った子どもの姿を基に、レベルアップをどう図ればいいのか」と語る峯指導教諭。「その点を明らかにしていきたい」と話している。

武内小 0954・27・2011

要素として共感力・対話力・深化力を設定し、それぞれ力の各段階を示したループリック表を、児童と教師で共有している点である。

主体的とは、対話的とは、どういふことなのか。協議を通して共通理解をさや意味を、学習者自身に「振り返らせる・実感させる」手だてとして参

「教師の働き掛け」と組み合わせ

「プールの事故をなくし、マを『プール安全ベッパー』楽しく水泳をしたい。そにしました！」

昼休みの時間を使い、自

要素として共感力・対話力・深化力を設定し、それぞれ力の各段階を示したループリック表を、児童と教師で共有している点である。

主体的とは、対話的とは、どういふことなのか。協議を通して共通理解をさや意味を、学習者自身に「振り返らせる・実感させる」手だてとして参

新地辰朗 宮崎大学 理事・副学長



家庭に持ち帰ったタブレットPCを用いた反転学習など、時代の変化を

捉えた新しい教育のデザ

インに、ICTを先駆的

に取り入れてきたのが、

武内小学校である。

本校が研究課題で着目

したのは、「教師の働き

掛け」と「ICT活用」

している。

注目すべきは、協働的

的に捉えているからこ

考になる。